

第1四半期決算概要

2010年3月期

株式会社シンプレクス・テクノロジー
(東証一部：4340)

www.simplex-tech.co.jp

2010年3月期 第1四半期決算サマリ

投資フェーズ (2008年3月期～2010年3月期)		収穫フェーズ (2011年3月期～2012年3月期)			
	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期
売上高	インターネット取引システムが牽引役となり順調に推移 (24.0億円/29.2%増) 計上基準を進行基準に変更した影響により、売上高2.3億円/利益0.7億円増加				
売上総利益率	SIの利益率が低下した一方、利益率の高いUMS (サービス) の売上高構成比の高まりを受けて、全体の売上総利益率が向上 (44.2%/3.1ポイント上昇)				
販管費内研究開発費	7月21日からスタートした大証FX※に関連するシステム投資を中心にUMS事業に対して積極的な先行投資を実施 (3.8億円/58.8%増)				
営業利益	売上総利益率が上昇した一方、研究開発費や人件費などの各種コスト増の影響を受け、売上の伸びと比べて利益の伸びが小さくなる (2.1億円/17.5%増)				
受注残高	順調に積み上がる (76.5億円/3.8%増)				

2010年3月期の連結業績予想


売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
14,500百万円	3,030百万円	3,000百万円	1,810百万円

※FXとは、外国為替証拠金取引を指します。大証FXとは、大阪証券取引所が2009年7月21日に創設した取引所FXの愛称です。

2010年3月期 第1四半期決算実績（連結）

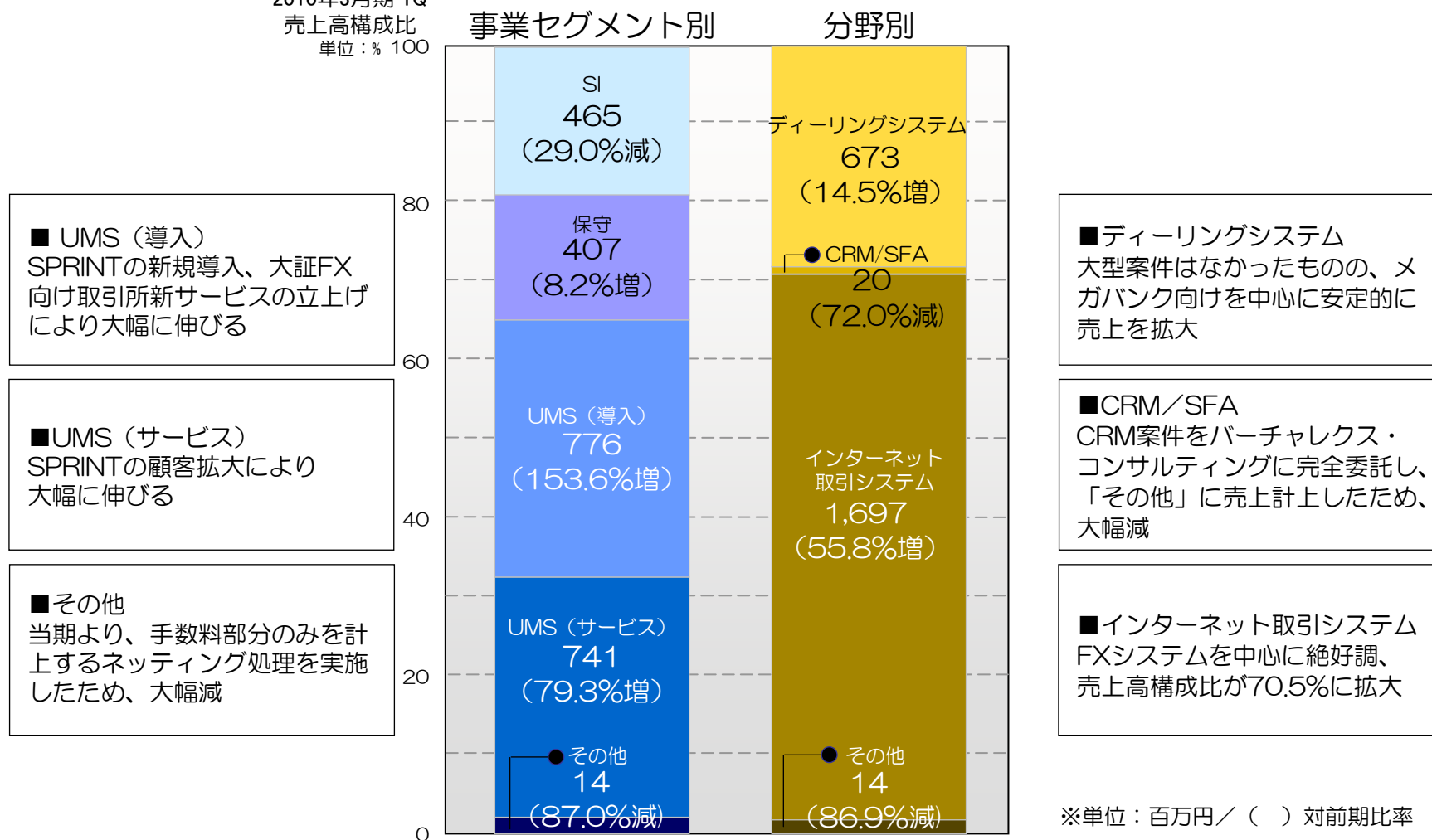
単位：百万円	2009年3月期 1Q実績	2010年3月期 1Q実績	増減	増減率
売上高	1,862	2,405	543	29.2%
売上総利益（率）	763 (41.1%)	1,062 (44.2%)	298	39.0%
販管費（率）	578 (31.0%)	844 (35.0%)	265	46.0%
内 研究開発費（率）	243 (13.0%)	386 (16.0%)	143	58.8%
営業利益（率）	185 (9.9%)	218 (9.0%)	32	17.5%
経常利益（率）	162 (8.7%)	216 (9.0%)	54	33.8%
当期純利益	84	129	44	53.3%
従業員数：期中平均	227	302	75	33.0%

 売上高 前年同四半期比 29.2%増

 売上総利益率が上昇した一方、積極的な先行投資の影響を受け、売上高よりも伸びが小さくなり
営業利益 前年同四半期比 17.5%増

売上高の増減要因

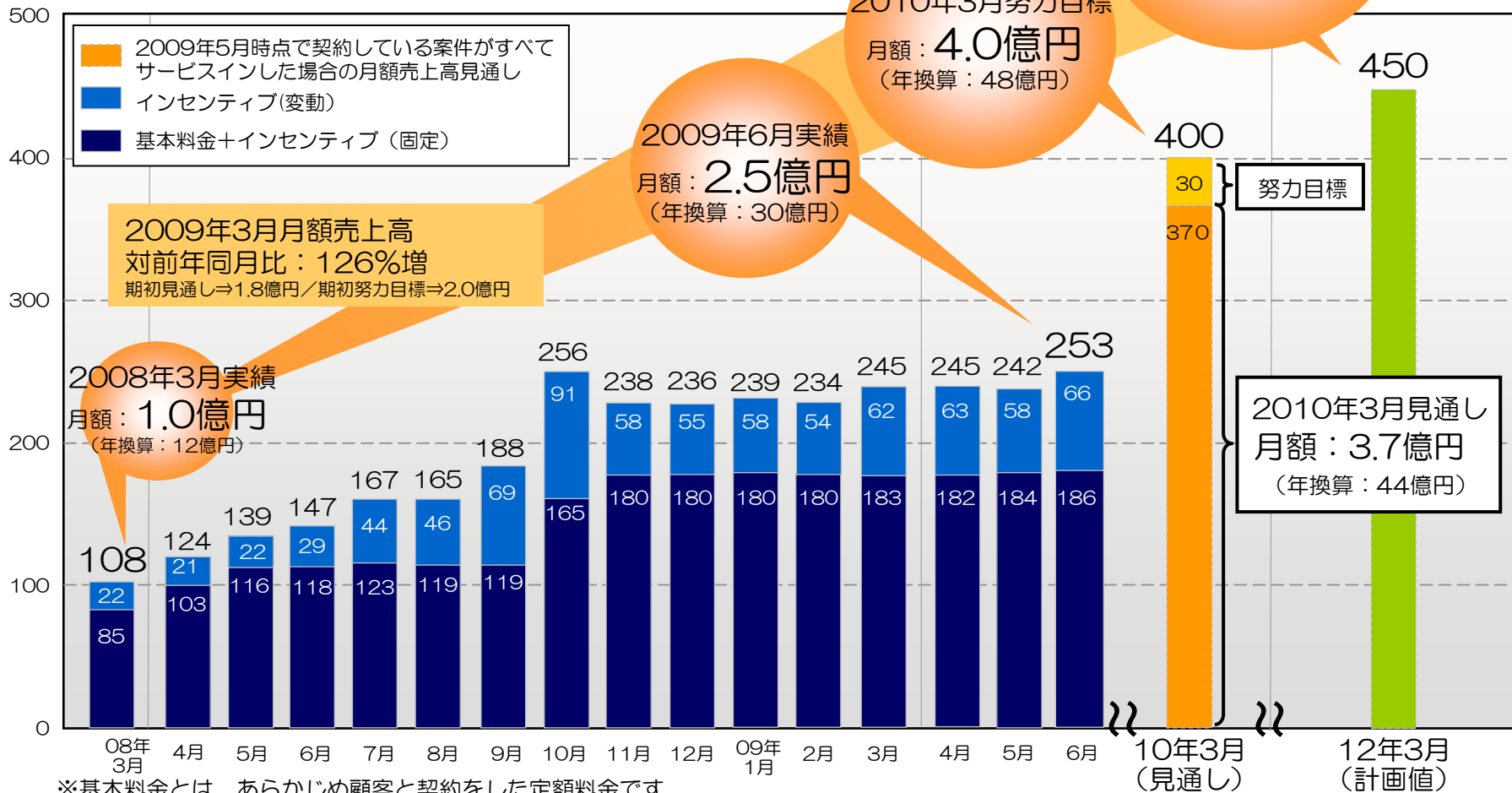
2010年3月期 1Q
売上高構成比
単位：% 100



※SPRINT (スプリント) は、当社が金融機関向けに展開する個人投資家向けインターネット取引システムの名称です。
 ※バーチャレクス・コンサルティングは、当社の持分法適用関連会社です。

UMS(サービス) 月額売上高の推移

単位：百万円



※基本料金とは、あらかじめ顧客と契約をした定額料金です。

※インセンティブとは、「手数料収入課金」などサービスを利用することによって生じる顧客の収益に連動する料金です。

※年換算値は、月額売上高の値を12倍して算出したものです。

※2010年3月見通しは、2009年5月時点の契約済案件から計上しています。

売上総利益率の増減要因

2009年3月期 1Q売上総利益率

41.1%

3.1Points 増

2010年3月期 1Q売上総利益率

44.2%

単位：百万円	2009年3月期 1Q 売上高 (利益率)	2010年3月期 1Q 売上高 (利益率)	前期比 増減 (増減)
システム・ インテグレーション(SI)	655 (34.6%)	465 (21.3%)	△190 (△13.3P)
保守	376 (55.2%)	407 (45.7%)	31 (△ 9.5P)
UMS (導入)	306 (37.3%)	776 (38.4%)	470 (1.1P)
UMS (サービス)	413 (50.1%)	741 (63.5%)	328 (13.4P)
その他 (物販など)	109 (6.8%)	14 (100.0%)	△ 95 (93.2P)

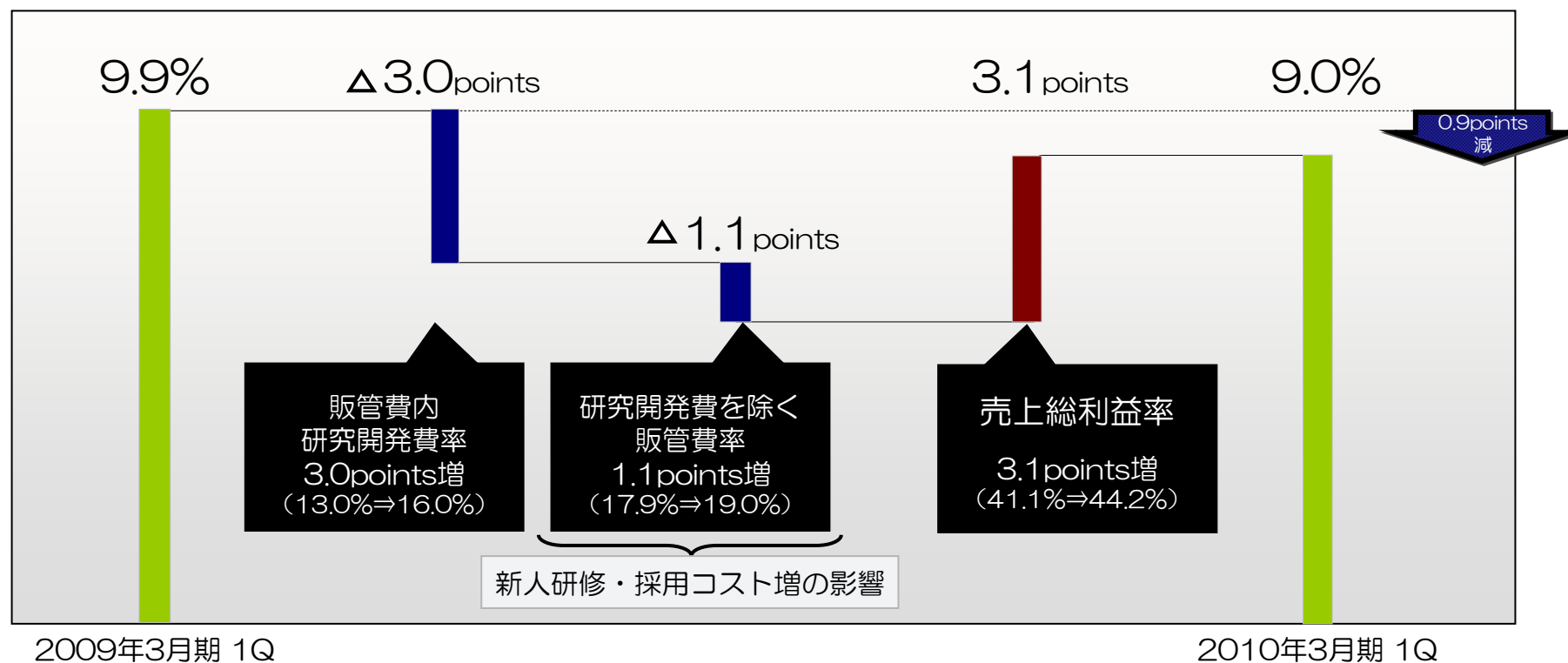


特定の不採算案件に対して、今後の追加工数を考慮した仕掛品評価損（61百万円）を売上原価に計上したため、SIの利益率が大きく低下（13.1ポイントの影響）
一方、特定SI案件においてリリース時に追加工数が発生したため、保守の利益率が低下



SPRINT導入顧客の増加により、UMS（サービス）の利益率が大幅に伸びる
利益率の高いUMS（サービス）の構成比が高まったことにより、全体の利益率を押し上げる

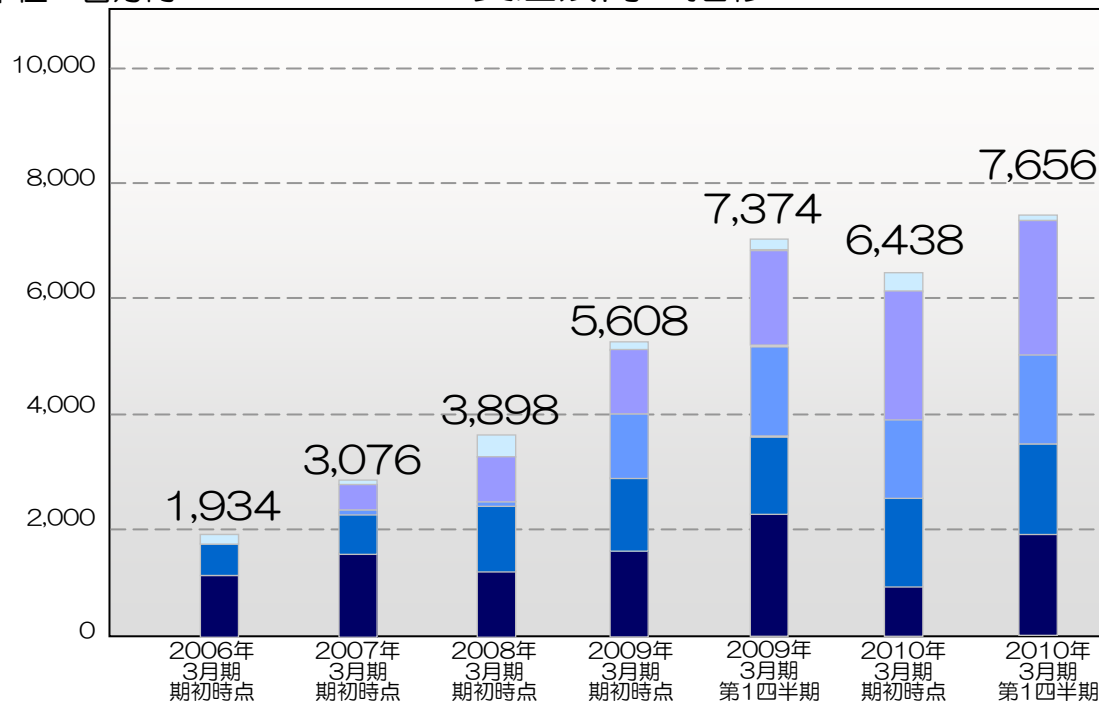
売上高営業利益率の増減要因



受注残高

単位：百万円

受注残高の推移



	2006年	2007年	2008年	2009年	2009年	2010年	2010年
期	3月期	3月期	3月期	3月期	3月期	3月期	3月期
時点	期初時点	期初時点	期初時点	期初時点	第1四半期	期初時点	第1四半期
■ その他	198	81	490	175	157	300	94
■ UMS(サービス)	-	448	894	1,233	1,655	2,244	2,249
■ UMS(導入)	-	93	73	1,094	1,692	1,419	1,650
■ 保守	591	817	1,213	1,391	1,644	1,578	1,698
■ SI	1,144	1,635	1,226	1,713	2,225	895	1,962

当期売上予定の受注残高を含む
1Qでの当期予算達成率 **60.6%**

通期売上予想：145億円
1Q売上高：24億円
今期計上分の受注残高：63億円 } **合計 87億円**

- その他
- UMS(サービス)
- UMS(導入)
- 保守
- SI

UMS (サービス) の受注残高計上方法

売上高が基本料金とインセンティブからなるUMS (サービス) は、基本料金部分のみを受注残高として計上

■ 2009年3月期インセンティブ実績
通期売上高：614百万円
2009年3月月額売上高：62百万円/月
(年換算：744百万円)

↑ 受注残高がUMSを中心に堅調に伸びる (前年同四半期比：3.8%増)

参考資料

UMS事業 「SPRINT」 導入実績

■ 「SPRINT」とは；

多彩な注文機能と分析機能を搭載した個人投資家向けインターネット取引システム

パソコンや携帯電話を利用して、豊富な金融商品を簡単・すばやく取引できる投資環境を実現

2009年7月末現在

	対応商品					
	株式 (現物・信用)	先物・オプション	FX			債券
			OTC※1	くりっく365※2	大証FX※3	
 SPRINT Pro スプリント・プロ リッチクライアント PC版	オリックス証券 ジョインベスト証券 松井証券 先物系証券会社1社	オリックス証券 ジョインベスト証券 松井証券 先物系証券会社1社	ソニー銀行 マネーパートナーズ 三菱商事フューチャーズ証券	△	インヴァスト証券 光世証券 コスモ証券 そしあず証券 ひまわり証券 この他5社から内定	△
 SPRINT Mobile スプリント・モバイル リッチクライアント 携帯電話版※4	オリックス証券 ジョインベスト証券 松井証券 先物系証券会社1社	オリックス証券 松井証券 先物系証券会社1社	ジョインベスト証券 ソニー銀行 マネックスFX マネーパートナーズ 三菱商事フューチャーズ証券	豊商事	△	△
 SPRINT Basic スプリント・ベーシック ウェブブラウザ版	△	ジョインベスト証券	スター為替 ソニー銀行 三菱商事フューチャーズ証券 大手ネット專業証券1社 ネット專業証券2社	スター為替 豊商事 ユニマット証券	インヴァスト証券 光世証券 コスモ証券 そしあず証券 ひまわり証券 この他5社から内定	オリックス証券

※1 ウェブブラウザ専用のOTC対応版は、SI事業として大和証券、ひまわり証券、マネーパートナーズに納入しております。

△...今後対応予定の商品・チャンネル

※2 ウェブブラウザ専用のくりっく365対応版は、SI事業としてコスモ証券に納入しております。

※3 大証FX対応版は、2009年7月21日よりサービスを開始しております。

なお、マーケットメイカー向け取引ゲートウェイシステムをマネーパートナーズに提供しています。

※4 リッチクライアントとは、専用のソフトウェアをダウンロードすることで高い操作性・表現力・機能性を実現するアプリケーションの総称です。